

# 令和2年度 学校自己評価

## 亀山市立亀山東小学校

主な評価項目	今年度の取組と成果	課題と今後の改善策
学習指導 (外国語教育含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話活動を中心とした研究を進め授業改善を進めることができた。</li> <li>ふり返りの充実(単元のふり返り、ふり返りの視点)</li> <li>みえスタの分析活用に全校体制で取り組むことができた。(調査、採点、分析、SP 表の活用、課題共有と改善補充授業の実施)</li> </ul> 【児童アンケート「授業がよくわかる」87.1% (昨年83.9%)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>みえスタの経年課題(要約、根拠示す記述、小数、時間、割合、図形)の更なる改善。6年間の積み上げを全校で検証。</li> <li>英語授業の改善: アクティビティ場面、Cando リストに基づく児童の評価(ふり返り)・体力調査での二極化解消</li> <li>家庭学習との効果的な連携・ICTの活用</li> </ul>
生徒指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内支援委員会の定期開催、生指委員会と合同討議、要支援児童の情報共有、QU 調査(分析、学級プロ作成、マネジメントシート記入)で、児童理解を進め未然防止や適切な初動対応に全校体制で取り組んだ。</li> </ul> 【児童アンケート「学校楽しい」92.3% (昨年86.8%)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待不登校といった課題に対応するため、現在の取組を継続する。SCや関係機関との連携も更々に密にして臨む。</li> <li>児童の居場所づくりは、不登校未然防止、生徒指導の基底であり、SST や学級づくりの研修の充実を図る。</li> </ul>
学力向上 少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習規律の徹底と語彙を増やす教室掲示や言葉の学びを整備した。</li> <li>習熟別授業456年生で実施。少人数による補充学習タイムは定期的に年間を通して実施(スキルアップタイム)</li> </ul> 【保護者アンケート: 「児童への学習規律の指導」100% (昨年80.3%)、「補充学習や少人数授業の実践」とともに肯定100% (昨年81.3%)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「亀山市学力向上推進計画(第3版)」の重点取組に積極的に取り組む。特に②ふり返り活動の充実(単元のふり返り)や③“新たな評価活動の研究”を研修の柱とする。</li> <li>ICT 活用による家庭学習の充実を図る。(個別最適化した学習課題、自ら進める h 学習習慣の確立)</li> </ul>
危機管理 保健安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防を徹底した。全校一斉手洗いタイム、3密回避を校内掲示、喚起ルールや遊具使用の校内ルールの作成と運営の徹底など。また、感染予防を徹底した行事(修学旅行、スポーツ・デー、入学卒業式)の開催。</li> <li>薬物乱用防止教室開催、コロナ禍での健康被害の保健指導(薬剤師の指導を受けて)を実施。【保護者アンケート: 「感染予防の学校取組」98.4%】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍における感染予防を考慮した教育課程や学校行事の実施判断および方法を不断に見直していく。職員一丸となって、その徹底を図るとともに、コロナ感染による人権侵害や差別を生まぬようにする人権教育の充実を図る。</li> <li>CS 創立の下で、地域とより連携協働した防災訓練を実施。</li> </ul>
人権教育 道徳教育 特別支援教育 情報教育・食育等	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権がキョムを見直し、人権教材と道徳教材の活用を推進した。</li> <li>特支、通級、外国人児童に関する“個別の指導計画・支援計画”の整備100%、見直し年3回実施。記載内容は全て保護者との共有した。</li> <li>1人1台端末を利用した対話学習、教師による研修討議(ロイノート)</li> </ul> 【保護者アンケート「一人ひとりきめ細か支援」89.4% (昨年76.1%)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年間を見据えた系統的な人権学習のカリキュラム構築</li> <li>教育活動全体による横断的な学びの場を道徳の指導に設定する。“相手の立場に立って考える”場面や日々のなかまの“善行”を取り上げるなどで実践的な力を養いたい。</li> <li>ICTによる指導の充実と個別最適化した学びの実現。</li> </ul>
社会に開かれた 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人ものことを活用した学びの機会を書く学年に位置付けた。体験や活動を伴う学びを地域との協働で豊かにすることができた。</li> <li>(農作物栽培体験学習、鈴鹿川の自然環境学習、大豆の加工体験学習、地域老人会参画、保幼との連携行事)</li> </ul> 【保護者アンケート「地域と協働した学習の実践」95.0% (昨年77.9%)】	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な学習」についての研修を重ね、教科を横断した深い学びを地域との協働で実践する</li> <li>体験を交えた学習の場面で、自己課題設定・探求(調査体験)・評価・まとめ発信・ふり返りと進む本来の総合的な学習を行うこと。</li> </ul>
総勤務時間 の縮減	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革への意識が職場に醸成され、時間外削減は、着実に進んでいる。【時間外(2月末現在)/月21.8h (昨年33.4h * -11.6h)】</li> <li>【月45h以上勤務者 本年度16人 *2月末現在(昨年度比-76人)】</li> <li>学校経営に関して、注力項目を毎月の職員会議で校長より提案。ベクトルを合わせと効率的な業務推進を図ってきた。同時に「働き方改革」についての校内研修とし、改革への目的の共有と意識の向上が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組を継続し、成果が見られた時間外勤務の縮減をさらに進めるため、コロナ禍での行事や活動の見直しを進める。</li> <li>年間360h以上の時間外勤務者の解消、休暇所得の向上</li> <li>衛生推進委員会を通じた職場全体での参画、労働環境の整備を実効性あるものに高める。職場組織を担うものの人材育成も併せて整える必要がある。</li> </ul>